

令和7年度武蔵村山市立学校 学校経営方針

武蔵村山市立小中一貫校村山学園 統括校長 井内 潔

教育目標

9年間の義務教育における系統的・継続的かつ主体的な学びを通して、「社会を構成し運営するとともに、自立した一人の人間として力強く生きていくための総合的な力」である「人間力」（知的能力、対人関係力、自己制御力）を身に付けた児童・生徒を育成する。

「人にやさしく、自分に強く、英知を磨く 村山の子」

1 目指す特色ある学校像

- (1)義務教育9年間での系統的・継続的な指導を通して、「人間力」の育成を図る学校
- (2)施設一体型の特色を生かし、「目指す児童・生徒像」の具現化に向け、小・中学校教員の「指導観の一貫」を目指す学校
- (3)地域・家庭との協働により、コミュニティ・スクールとして信頼される学校

2 目指す児童・生徒像

- (1)自ら学ぶことができ、基礎的・基本的な学力が身に付いている子
- (2)自分で考えることができる子
- (3)自分で判断することができる子

3 経営の具体策

- (1)人権尊重教育に基づき、児童・生徒のいじめ防止を図る。
- (2)生命を尊重する心を育む道德教育の推進を図る。
- (3)「基礎的・基本的な学力の確実な定着と向上」を最重要課題とする。
授業では問題演習を繰り返し実施して、特に小学校4年生までの算数、国語の基礎的・基本的な学力（読み・書き・計算）の定着を徹底する。「読み」は読書、「書き」は作文や日記、「計算」はデジタル教材やドリル等を中心とする。1年生から9年生まで全体で年間計画を具体的に立て、実践する。保護者と連携し、タブレットPCで家庭学習を行うことが当たり前になることを目指す。全ての学年で行う。
- (4)心身の健康推進、体力向上を図る。
- (5)国際理解教育は、グローバル化に対応でき、国際社会で活躍できる人材としての素養を養う。日本語学級に通級する児童の日本語教育を推進する。
- (6)特別な支援が必要な児童・生徒に「個に応じた」特別支援教育を組織的に推進する。
校内委員会を中心に組織全体で支援する。「知的障害固定学級」では授業改善を図る。「自閉症・情緒障害固定学級」では特に自立活動の指導に重点をおく。
- (7)安全・安心を基盤とした組織的な生活指導の推進と危機管理の徹底を図る。初期対応と報告・連絡・相談・確認を徹底し、課題は全教職員で共有する。
- (8)「デジタル学習基盤」つまり「GIGAスクール構想による一人一台端末やクラウド環境等のデジタル学習」を積極的に有効活用する。タブレットPCを使って、児童・生徒一人一人の教育的ニーズに適した個別最適化された学びを行う。小学部1年生の段階から、ローマ字タイピングの練習を行い、タブレットPCの基本操作を習得する。SNSの正しい使い方を含む情報モラル教育を更に推進する。情報モラルの知識習得だけでなく、「してはいけないことを実行しない」を身に付けさせる。
- (9)意図的・計画的なOJTにより若手教員の育成、組織の教育力向上を図る。
- (10)働き方改革を実効性あるものとして進め、教職員の意識改革にも取り組む。

3 まちづくり学習の推進に向けた方策

まちづくり学習を通じて、児童・生徒に武蔵村山市の魅力に気付かせるとともに、まちづくりに参画する態度を育成する。外部人材や地域資源を計画的に活用し、教育内容と活動の充実を図る。

4 小中一貫教育推進に向けた方策

小中9年間の中で、小中連携や異学年交流による様々な学校行事や体験学習等を通して志をもたせる。併せて、9年間でのキャリア教育の推進を図る。